

# ニュースレター

発行者  
キリスト教礼拝音楽学会  
〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501  
TEL/FAX 03-3721-0891  
発行日 / 2010年3月1日

## 第10回大会 広島で開催！

★テーマ：『礼拝における実践』

★日時：2010年5月29日(土) 10:00-16:30

★会場：日本基督教団 広島流川教会

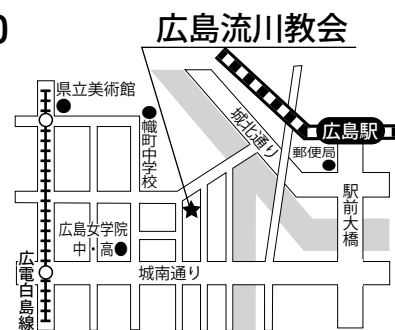
〒730-0014 広島中区上幟町8-33

TEL082-221-1813 牧師：沖村裕史

★主催：キリスト教礼拝音楽学会

★会費：会 員 ¥3,000 (昼食込み)

非会員 ¥1,000 (昼食希望者：実費負担)



※交通機関・ホテルについては、JR・航空機とホテルがセットになった商品がありますので、各自旅行会社にお尋ね下さい。

### ●プログラム

5/29 9:30 -	受付	総合司会 伊東辰彦
10:00 - 10:05	オルガン前奏 会長開会挨拶	
10:05 - 11:00	研究発表……………	大津磨由美、佐々木悠
11:00 - 12:00	基調講演……………	沖村裕史牧師 「教会に仕える賛美」 —より豊かな礼拝をめざして—
12:00 - 12:30	総会	
12:30 - 14:30	懇親会(昼食付き) ミニコンサート	
14:30 - 16:30	シンポジウム 「教会音楽・実践の現状」	司会 佐々木しのぶ
	広島流川教会オルガニスト……………	大代 恵氏
	広島ルーテル教会オルガニスト……………	吉田 仁美氏
	カトリック広島観音町教会オルガニスト……………	横田和歌江氏
16:30 -	会長閉会挨拶	
16:40 -	エリザベト音楽大学・オルガン見学、世界平和聖堂見学	

※5/30 市内観光をご希望の方は、同封します「ようこそ広島へ」を参考にしてください。

### 参加申込：5月21日締切・厳守

大会案内申込書(みどり色の用紙)に記入し、下記宛・郵送・FAXのいずれかで、お申し込みください。  
多くの方のご参加をお待ちいたしております。

参加費は郵便振替口座(キリスト教礼拝音楽学会東北地区部会02240-3-46335)に大会費と明記し、お振込みください。

参加申込：〒145-0071 東京都大田区田園調布2-48-12-501 手代木方 キリスト教礼拝音楽学会大会係  
Tel/Fax: 03-3721-0891 (手代木) E-mail: gammo@ka2.so-net.ne.jp

## 第10回記念大会に寄せて

金澤 正剛

第10回記念大会が今年の5月29日(土曜日)に広島で開催されることになりました。会員の多くが東京とその周辺に集中しているこの学会では、毎年一回の大会を東京で行うことがどうしても多くなってしまいます。学会の活動をより全国的に広めたいということから、2年前の第8回大会を大阪の東梅田教会で開催したところ、予想を遥かに上回る70名を越す参加者が集まり、大いに盛り上がったことが思い起こされます。今回はそれよりもさらに西へ向って広島での大会、全国の会員諸氏は勿論ですが、特に西日本からの参加者を大いに期待したいと思います。

それにしてもこの大会が第10回記念大会であるということは、キリスト教礼拝音楽学会が発足して10年目を迎えるということに気づき、万感の思いです。さかのぼれば2001年1月28日(土曜日)に、東京池袋の立教大学諸聖徒礼拝堂で学会設立総会が行なわれたことが昨日のこのように目に浮かびます。最近会員になられた方にとっては遠い昔の話のように思われるかも知れないので、その時のことを思い起こしてみると、総会に先立ち午後3時から日本キリスト教団世田谷千歳教会の菊池牧師の司式、先唱者植木紀夫氏による1539年のシュトラスブルグ典礼の復元礼拝が行われ、続いて井上義氏と手代木俊一氏による2つの記念講演があった後、午後5時から塩谷栄二氏を議長として総会が開かれ、約60名の出席者の賛同を得て学会が成立したわけです。その場で選ばれた初代会長は西南学院大学名誉教授の古澤嘉生先生でしたが、以後先生は7年にわたって会長を勤められ、役員会の際には遠く福岡からの遠路を厭わずに出席され、学会初期の形成に尽力されました。

その先生が3年前に辞意を表された時に、後を承ったのが私ですが、その時点で私が一番心配に思ったことは、九州で活躍を続けておられる先生を失うことで、その後の学会活動がますます東日本、さらには東京中心になってしまうのではないかということでした。そこで学会活動をより全国的にするため、特に西日本への活動を盛んにしたいということで行なわれたのが2年前の大阪大会でした。そしてその成功はわれわれ学会の運営を任されている者にとって、大いに勇気付けられるところとなったと思います。この学会の活動が全国規模に広まっていける可能性を示した重要な経験であったと言って良いでしょう。

そして今年は広島です。町の中心や広島駅、さらには世界平和聖堂やエリザベト音楽大学からもさほど遠くない上幟町の広島流川教会を会場として、「礼拝における実践」を主題として行われる今回の大会には大いに期待が寄せられます。また広島と言えはまず心に浮かぶのが平和の祈り。礼拝音楽のあり方を考えるこの学会の記念すべき第10回大会の開催地として、これほどふさわしい都市は無いのではないのでしょうか。

(当学会会長)

## － 第10回大会開催に寄せて －

佐々木しのぶ

キリスト教礼拝音楽学会は、2001年1月に発足し、今回は記念すべき第10回目の大会である。地方での開催は、2008年の大阪大会に続き、2度目となる。奇しくも、アメリカの大統領が核廃絶を唱え、被爆地広島は改めて平和の象徴として世界中に知られるようになった。この広島で大会を開催することになり、愛に根ざすキリスト教から生まれた音楽が、人類の平和のために必要であることを再確認したいと思う。

この学会が発足した当時、私はこのマイナーな分野にはたして会員が集まり、学会を継続できるかどうか不安であった。しかし同時に、このマイナーな分野であるからこそ、貴重で、ぜひ継続・充実した学会に育ってほしいという強い思いがあった。

10年間の当学会の歩みは、会員の減少、緊縮財政等の問題を抱えながらも、充実したものであった。外国(アメリカ、ドイツ、イギリス)から、キリスト教音楽の著名な講師を招き、非常に豊かな学びをすることができた。また、キリスト教音楽にかかわる各分野の先生方の講演やディスカッションなどにより、会員にとって、多いに啓蒙される機会が備えられた。しかし他方で課題も大きいと言わざるを得ない。若い研究者の育つ土壌が整っておらず、後継者が非常に少ないからである。とても残念である。実務(会計、事務、学会誌編集等)を担当するための組織・分担もまだ十分に確立しているとは言えず、少子高齢化の問題も影響を及ぼしつつある。しかしながら、これらの困難にもかかわらず、本学会創設の理念に立ち返りつつ、会員のつながりを大切にしながら、層の厚い学会になっていくことができると願っている。

第10回の大会は、初めて実践の問題をとりあげることになった。教会で音楽にかかわるオルガニスト、音楽主事、牧師がどのような問題をかかえているのかを、教派を超えて話しあってみるという試みである。

私事で恐縮であるが、1995年5月に発行された『季刊教会』(日本キリスト教団改革長老教会協議会)に「奏楽者がいなくなったら－教会ミステリー」という題で、文章を書いた。もう15年前も前のことである。教会の現場では、オルガニストが大変苦勞し、苦悩していることを綴った。しかも、そのオルガニストさえ、存在しなくなるのではとの危惧を覚え、そうならないように努力したい旨の文章を書いた。15年を経た現在、各教会の礼拝音

楽はどうなっているのだろうか。

今後、ますます少子化が進み、オルガンを学ぶ場も縮小されることであろう。教会員の高齢化も進み、オルガニストのことを考える余裕も無くなっていくかもしれない。このような状況にあって、礼拝を支えるオルガニストの失踪事件や教会消滅事件などがおこらないように、具体的な手を打っておく事が必要であろう。

なお、第10回大会を迎えるに当たり、これまでの記録を以下にまとめてみた。今回の企画のみならず、今後の課題を検討する素材として、役立てば幸いである。

### 第1回

日 時：2001年5月26日(土) 10:30-17:30

会 場：青山学院女子短期大学礼拝堂

基調講演：Robin A.Leaver 「礼拝音楽学の今日：欧米の動向を中心として」

研究発表：

尾田泰彦 「使徒憲章—アナフォラの源流を求めて」

井上 義 「使徒憲章—成立史と研究を中心として」

藤森美究 「讃美歌と和声、そして奏楽」

水野隆一 「礼拝実践—伝統的要素の利用」

瀬尾文子 「オラトリオのドラマ性の問題」

佐々木勉 「同朋学園大学附属図書館所蔵

Lettera annale delle cose del Giappone del MDLXXXIIの研究」

総 会

### 第2回

日 時：2002年5月25日(土) 10:00-17:00

会 場：青山学院大学620,610番教室

研究発表：

鈴木隆太 「日本聖公会の祈祷書改正と聖歌集の改訂」

江原美歌子 「『新生讃美歌』から福音唱歌の伝統と今後」

中村信一郎 「『つげまつらまほし』考—

キリスト教学校の現場から」

エヴァルト・ヘンゼラー / 安足麿由美

「『カトリック聖歌集』(1996)と日本人の作曲による聖歌」

岡崎淑子 「ローカルな典礼音楽－グローバル時代の課題」

菊地純子 「古代バビロニアの音の世界」

基調講演：

古澤嘉生「英国における中世からチューダー王朝を経て王政復古に至るまでの教会音楽の流れ」

総 会

### 第3回

日 時：2003年5月31日(土) 10:00-16:00

会 場：明治学院大学アートホール

基調講演：Robin A.Leaver

「宗教改革期の礼拝と楽器：歴史的概観」

通訳：藤守義光

パネルディスカッション：

『礼拝と楽器』 司会：井上 義

尾田泰彦 「なぜ無伴奏か 東方教会的理解」

菊地純子 「神殿における楽器の機能

旧約聖書と楽器」

藤森美究 「礼拝と和声」

小田賢二 「礼拝と音楽には、なぜオルガンなのか」

佐々木しのぶ 「オルガニストの職務」

総 会

### 第4回

日 時：2004年5月29日(土) 10:30-17:00

会 場：青山学院大学本部礼拝堂

基調講演：Volker Lutz

「ドイツにおける教会音楽家の職務と教会音楽教育」

通訳：植木紀夫

研究発表：

佐々木しのぶ 「日本の教会音楽・オルガン音楽教育の継承」

植木紀夫 「私の教会音楽教育について-教会音楽主事の視点から」

佐佐木ジョシュア 「Praise & Worshipの教会音楽教育の試み」

塩谷栄二 「私の聖公会音楽教育について」

尾田泰彦 「正教会の音楽教育」

小田賢二 「カトリックの音楽教育」

パネルディスカッション：

「教会音楽教育」 司会：井上 義

植木紀夫、小田賢二、尾田泰彦、佐々木しのぶ、

佐佐木ジョシュア、塩谷栄二、V.ルッツ

総 会

### 第5回

日 時：2005年5月28日(土) 10:40-16:30

会 場：明治学院大学本館1455教室

主題講演：『礼拝音楽学の多様性…音楽学、礼拝学、民族音楽学の立場から』

山本有紀 「日本の文脈での「礼拝の神学」構築の視点から」

屋山久美子 「民族音楽学における礼拝音楽研究の動向と中東における礼拝音楽の現状」

伊東辰彦 「最近10年の日本の礼拝音楽研究の動向を探る－『音楽文献目録』などから得られる書誌情報をもとに－」

ラウンドテーブル

藤守義光(礼拝学)、岡崎淑子(民族音楽学)、

大角欣也(音楽学)

総 会

### 第6回

日 時：2006年6月3日(土) 10:30-16:30

会 場：カトリック幼きイエス会(ニコラ・バレ)9階ホール

基調講演：金澤正剛 「15世紀エステ家礼拝堂(フェラーラ)の音楽(聖務日課と受難曲)」

再現演奏：「マタイ受難曲」(作曲者不詳) 植木紀夫他  
シンポジウム：「15-16世紀の聖務日課とミサ」

司会：金澤正剛

遠藤衣穂 「イタリア〔フランドルを含む〕」

那須輝彦 「イギリス」

大角欣也 「ドイツ」

総 会

### 第7回

日 時：2007年6月2日(土) 11:00-17:30

6月3日(日) 16:00-18:00

6月4日(月) 18:30-21:00

会 場：2・3日 立教学院諸聖徒礼拝堂  
4日 聖オルバン教会

6月2日

総 会

基調講演：Prof. John Harper

「イングランドにおける教会音楽の変容

1525-1625年 典礼、ポリフォニー、オルガン」

6月3日

コアイア・フェスティバル(合唱ワークショップ)と晩禱

6月4日

「教会における礼拝の音楽の今」

## 第8回

日時：2008年6月7日(土) 10:00-16:30  
会場：日本基督教団 東梅田教会  
礼拝：水野隆一  
基調講演：金澤正剛 「キリスト教と音楽－詩篇」  
講演：手代木俊一 「キリスト教と音楽－  
日本の讃美歌・聖歌史をとおして」  
新垣壬敏 「キリスト教と音楽－  
作曲家の立場から」  
ディスカッション：上記講演者と参加者  
司会：伊東辰彦

総会

基調講演：樋口隆一 「バッハ復活と19世紀ドイツ・  
プロテスタント音楽」

総会

講演：

佐藤 望 「バッハ時代のドイツ・プロテスタント教会における音楽をめぐる神学論争」  
加藤拓未 「職務と芸術的主張の狭間で－ハンブルクの音楽監督およびカントルとしてのテレマン」

久保田慶一「カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ研究」

明治学院バッハアカデミーによる特別演奏会

J.S.Bach : Motette "Komm, Jesu, komm"

G.Ph.Teleman : Motette "Ein feste Burg ist unser Gott"

C.ph.E Bach : "Fuerwahr, er trug unser Krankheit" aus Matthaeus-Passion

F.Mendelssohn : Pslm43, op.78, Nr.2 他

(当学会理事、東北学院大学非常勤講師・オルガニスト)

## 第9回

日時：2009年6月6日(土) 10:30-16:30  
特別演奏会17:00-  
会場：明治学院大学白金キャンパス アートホール、チャペル

# 第3回セミナー報告 「ハルモニウム再考」

赤井 励

真冬とは思えないのどかな日曜日の午後、東京の東久留米市に素晴らしい研修所と聖堂を持つ聖グレゴリオの家宗教音楽研究所(橋本周子所長)のご好意により、美しい聖堂を会場にお借りして研究例会が開かれた。今回は日本リードオルガン協会との共催という形をとり、双方の会員が共に勉強のひと時をもてたことは幸いであった。ハルモニウムという希少な楽器を身近に知る機会は少ないが、当学会会員である中村証二氏(日本キリスト教団善通寺教会オルガニスト)は教団倉敷教会などでこの楽器の演奏法を研究、その成果を披露していただいた。また日本リードオルガン協会の伊藤園子氏、伊藤信夫氏ご夫妻が今回、デリケートなハルモニウムの整備に尽力してくださったことに深く感謝したい。手代木俊一副会長は父上が例会直前に逝去されたが、例会開催に向けていささかも緊張感を失わずに努力して下さったことは本当に有難く思った。

演奏されたのは同研究所所蔵の二台だが、一台は1929年、札幌のカトリック司教座聖堂に渡来したRodolphe製、もう一台は1892年に東京の関口教会に渡来したDumont製である。後者はかつて東京カテドラルにて故

白柳枢機卿が管理されていた。この二台の音色はかなり異なり、ロドルフ製は比較的渋い、古風でまろやかな音色、デュモン製はストップ間の変化が大きく華やかなロマン派に向けた印象である。各ストップの説明も加えた上、中村氏はこの二台を曲によって弾きわけ、その性能をまっすぐに引き出すよう配慮をされていた。

まず超教派的な内容のオルガン主導によるメデイテーションがあり、これには讃美の歌と会衆の応答文も用意されていた。次いで、私がロバート・F.ゲラーマン氏、オットー・ビーバ氏などを引用しながら、リードオルガンとハルモニウムの最盛期と今後の再興の可能性について短く私見を述べさせていただいた。休憩をはさみ、後半は中村氏によるコンサートとなり、F.ペーテルス、C.フランク、D.ブクステフーデ、L.ボエルマン、サン＝サーンス、L.ヴィエルヌ、A. D.フィッシュユ、C.キャラハンなどの各曲を演奏、最後に中村氏編曲になる「朝ごとに主は」(『讃美歌21』より)が奏された。演奏終了後は参加者にも短く楽器の試奏が許され、楽器を囲んで交歓の輪が広がった。

(当学会理事)

★第3回セミナー報告 .....

- 主題：ハルモニウム再考
  - 日時：2010年1月24日(日) 14:00-17:00
  - 会場：聖グレゴリオの家
  - プログラム  
講演……………赤井励(当学会理事)  
「ハルモニウムとリードオルガンの  
静かなルネッサンス」  
メディテーションと演奏…中村証二(当学会員)  
質疑応答
  - 共催：日本リードオルガン協会
  - 後援：聖グレゴリオの家
- ※20名の参加で、大変実りある学びをすることができました。



★役員会報告 .....

- ①日 時：2009年11月29日(日) 14:00-  
場 所：芸術劇場5F喫茶店  
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木  
議 題：・学会誌、ニュースレター、大会について
- ②日 時：2010年1月31日(日) 14:00-  
場 所：芸術劇場5F喫茶店  
出席者：伊東、金澤、佐々木、手代木、  
議 題：・大会の詳細な企画について…  
場所、講師、会費の決定  
・ニュースレター、大会案内  
・学会誌

★学会誌発行予定 .....

- 第9号 学会誌……4月半ば刊行予定
- 内容・巻頭言……………新垣壬敏
- ・論文……………手代木俊一、加藤拓未
  - ・研究ノート…手代木俊一
  - ・特別寄稿……山本有紀
  - ・書評……………塩谷栄二
- 『聖公会の聖歌 いのちを奏でよ』

- 宮崎光著
  - ・書評……………吉田幸弘  
『聖書に見られる賛美歌の源泉』  
神谷聰子著
  - ・書評……………佐々木悠  
『メシアン創造のクレド』  
アルムート・レスラー著  
吉田幸弘訳
  - ・書評……………加藤拓未  
『憶えよ、汝死すべきを』  
深井智朗・大角欣矢著
  - ・第9回大会プログラム&報告……伊東辰彦
- ※別冊 『日本の讃美歌・聖歌研究書誌2009』  
手代木俊一著を同時発行予定

★会員出版物の案内・募集 .....

- 『あたらしい歌』(CD付)  
福音讃美歌協会=JEACS(植木紀夫他)編 いのちのことは社  
『ミサ曲・賛歌集』  
編者：新垣壬敏・監修：野下千年 聖母の騎士社  
※編集委員会より  
会員の新聞刊物を掲載し、皆様にご紹介したいと思います。  
編集委員(手代木、佐々木宛)までお知らせください。

★会費納入のお願い .....

会の運営に対して、いつも支援をいただき感謝申し上げます。**2009年度の会費**をまだ納入していない方は、ぜひ下記の口座にお振込くださいますようお願い申し上げます。2007年度総会で決定された会則改正により、2008年度より会費が変更になっております。

キリスト教礼拝音楽学会 東北地区部会  
郵便振替口座 02240-3-46335

- 入会金：3,000円(入会時のみ)
- 年会費：正会員 6,000円  
(2007年度までの分は5,000円)
- 準会員 3,000円
- 賛助会員 20,000円

- 振込用紙には\*\_\_\_\_年度/正・準・賛助会員/会費の金額を必ず明記の上、ご送金ください。
- 住所変更等も、お知らせください。
- 会費納入についてご不明なことがございましたら、下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ  
〒980-0023 仙台市青葉区北目町6-6-1101  
TEL/FAX022-262-6565  
Email:sshinobuorg@ybb.ne.jp